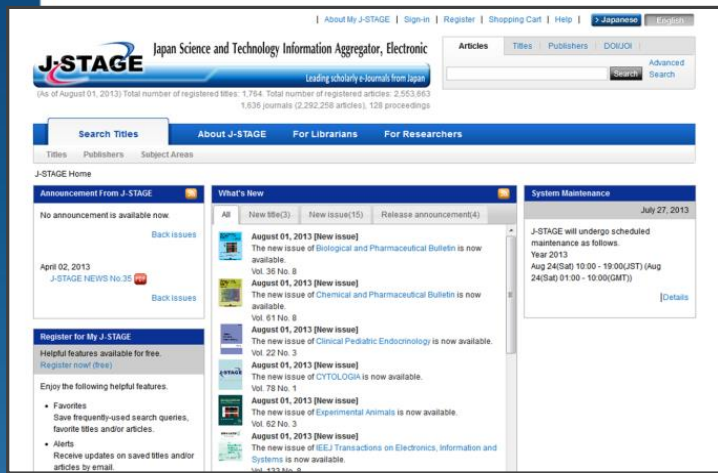


ジャパンリンクセンター「対話・共創の場」(第3回)
平成29年3月27日(月)

J-STAGE引用文献リンクに おけるDOIの活用

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
知識基盤情報部
加藤 齊史

J-STAGEとは



www.jstage.jst.go.jp

国内の学会・協会が発行する学術電子ジャーナルの
国内最大級オープンアクセスプラットフォーム

9割近くのジャーナルが無料

- ◆ 1999年サービス開始
- ◆ 全収録誌数: 2,083誌 全収録記事数: 2,715,023記事
(2017年3月15日現在、刊行終了誌や予稿集を含む)
- ◆ 国内で逐次発行される学術刊行物の国内外への発信・オープンな流通の促進
- ◆ アーカイブよりも、最新コンテンツの公開を重視
- ◆ データの作成・公開・運用は各発行機関(J-STAGE利用学協会等)が行う

J-STAGEのしくみ

学術電子ジャーナルプラットフォーム
(国内最大級)

登載機能

発行機関

- ・発行機関自身で記事を登載
- ・著作権は発行機関または 著者に帰属
- ・記事の登載に関する意思決定は発行機関による
 - (例) ・記事の公開可否
 - ・公開時期(早期公開、インバーゴ)
 - ・フリー公開 or 認証付き
 - ・バックナンバー



- ・科学技術刊行物の電子化
- ・国内外における流通促進
- ・オープンアクセスの推進

公開画面
閲覧者機能

閲覧者

- ・登載記事の閲覧
- ・閲覧者機能の活用
 - (検索機能
 - My J-STAGE

記事の閲覧例

[J-STAGE](#) | My J-STAGEとは? | ログイン | 新規登録 | ショッピングカート | ヘルプ | Japanese | English

情報管理 Journal of Information Processing and Management
 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency
 ONLINE ISSN: 1347-1597 PRINT ISSN: 0021-7298 2015年05月26日現在 収録数: 5,962記事

記事 巻号頁 DOI
 資料の中を検索します。 検索 詳細検索

閲覧する 論文投稿する 発行機関について
 最新巻号

J-STAGE トップ > 資料トップ > 書誌事項

情報管理 Vol. 58 (2015) No. 2 p. 83-91
 DOI http://doi.org/10.1241/johokann.58.83

京都大学URAネットワークにおける研究資金獲得支援 情報の収集・提供・分析

J-STAGE公開日 20150501
 キーワード: リサーチ・アドミニストレーター, URA, 研究推進, 研究資金獲得支援, 学内連携, 学内情報共有, 京都大学

[全文HTML](#) [本文PDF \[1677K\]](#)

抄録 引用文献(2)

京都大学では、2011年度より研究推進に携わる専門職としてリサーチ・アドミニストレーター(University Research Administrator: URA)を任用し、学術研究支援室と8つの部局URA室、2つのユニット付きURAからなるURAネットワークを構築してきた。URAIによる主要な研究推進業務の1つとして研究資金獲得支援があげられる。本稿では、URAネットワークで実施している科研費申請支援、人文・社会科学系(人社系)研究者のための支援、ICTを活用した情報の集約と分析について紹介する。また、支援業務の中で浮かび上がってきた、学内でのナレッジの共有、よりプロアクティブな支援の必要性、人社系研究支援の検討などの課題について述べる。

書誌ページ

JSTサービス紹介 ●J-STAGEの登録対象コンテンツ拡大

JSTサービス紹介
 J-STAGEの登録対象コンテンツ拡大
 Service Overview from JST 情報管理, 2016, vol. 59, no. 3, p. 197-199. doi:http://doi.org/10.1241/johokann.59.197

1. はじめに
 科学技術振興機構(JST)が運営するJ-STAGE(Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic)¹⁾は、2015年11月末より登録コンテンツに関するサービス方針を新たにし、これまで査読付き論文が中心であった登録対象コンテンツの拡大を実施した。これにより、従来は登録対象とならなかった会議論文・要旨集、研究報告書、一般解説誌等もJ-STAGEの登録対象となった。また、登録対象コンテンツの拡大にあわせ、簡便にJ-STAGEに記事を登録できるWeb登録機能を開発し、提供を開始した。本稿では、J-STAGE登録対象コンテンツに関する新たなサービス方針について、公開画面表示の変更点や新しい登録機能にも触れながら紹介する。

どの記事を掲載した「解説誌」、科学技術の理解増進を目的とした記事を掲載した「一般情報誌」等も登録の対象とした(表1)。この登録対象コンテンツの拡大により、J-STAGEは論文誌に限らず幅広い科学技術刊行物の電子化を支援、国際的流通を促進してゆく。また、発行機関にとってはJ-STAGEを利用して科学技術刊行物を発信できる機会が大きく増加することとなる。さらに、JSTは国立情報学研究所電子図書館事業(NII-ELS)の段階的なサービス終了²⁾に伴い、発行機関の要望に応じてNII-ELS掲載誌のJ-STAGEへの受け入れを行う。JSTは国立情報学研究所と連携し、過去データの移行をスムーズに行うための支援を実施する。このような登録対象コンテンツ拡大の取り組み

全文PDF

Index

- ▼ 1. はじめに
- ▼ 2. J-STAGE登録対象コンテンツの拡大について
- ▼ 3. 公開画面表示のリニューアルについて
- ▼ 4. 新しい登録機能について
- ▼ 5. J-STAGEの取組状況と今後の展望
- ▼ 6. おわりに
- ▼ 本文の注
- ▼ 参考文献

1. はじめに
 科学技術振興機構(JST)が運営するJ-STAGE(Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic)¹⁾は、2015年11月末より登録コンテンツに関するサービス方針を新たにし、これまで査読付き論文が中心であった登録対象コンテンツの拡大を実施した。これにより、従来は登録対象とならなかった会議論文・要旨集、研究報告書、一般解説誌等もJ-STAGEの登録対象となった。また、登録対象コンテンツの拡大にあわせ、簡便にJ-STAGEに記事を登録できるWeb登録機能を開発し、提供を開始した。本稿では、J-STAGE登録対象コンテンツに関する新たなサービス方針について、公開画面表示の変更点や新しい登録機能にも触れながら紹介する。

▲ Page top

2. J-STAGE登録対象コンテンツの拡大について
 J-STAGEは、科学技術刊行物の電子化による情報の発信と流通の迅速化を目的としたプラットフォームとして、1999年にサービスを開始した。2003年に大規模なシステム改修を実施¹⁾、2012年には、学協会誌についての創刊号までがのぼって電子化を行う「Journal@rchive事業²⁾と統合し、拡大を続けてきた。この間、査読付き論文誌を中心に登録を行っており、科学技術刊行物であっても、査読記事が含まれていない論文誌や、投稿者が限られる大学の紀要などは、これまでJ-STAGEの登録対象とはならなかった。

新たなサービス方針ではこの要件を緩和し、査読付き論文誌以外にも、企業等が刊行する「研究報告書・技術報告書」、研究開発成果の発表概要をまとめた「会議論文・要旨集」、知識や技術・製品紹介などの記事を掲載した「解説誌」、科学技術の理解増進を目的とした記事を掲載した「一般情報誌」等も登録の対象とした(表1)。この登録対象コンテンツの拡大により、J-STAGEは論文誌に限らず幅広い科学技術刊行物の電子化を支援、国際的流通を促進してゆく。また、発行機関にとってはJ-STAGEを利用して科学技術刊行物を発信できる機会が大きく増加することとなる。

全文HTML

引用文献一覧のイメージ

抄録 引用文献(19) 被引用文献(2)

Bjerknes, J., 1966: Atmospheric teleconnections from the equatorial Pacific. *Mon. Wea. Rev.*, **97**,163-172.

Clement, A. C., P. DiNezio, and C. Deser, 2011: Rethinking the ocean's role in the Southern Oscillation. *J. Climate*, **24**, 4056-4072, doi:10.1175/2011/JCLI3973.1.

Harrison, D. E., and G. A. Vecchi, 1997: Westerly Wind Events in the tropical Pacific, 1986-95. *J. Climate*, **10**, 3131-3156.

Ishii, M., A. Shouji, S. Sugimoto, and T. Matsumoto, 2005: Objective analyses of sea-

リンク情報詳細

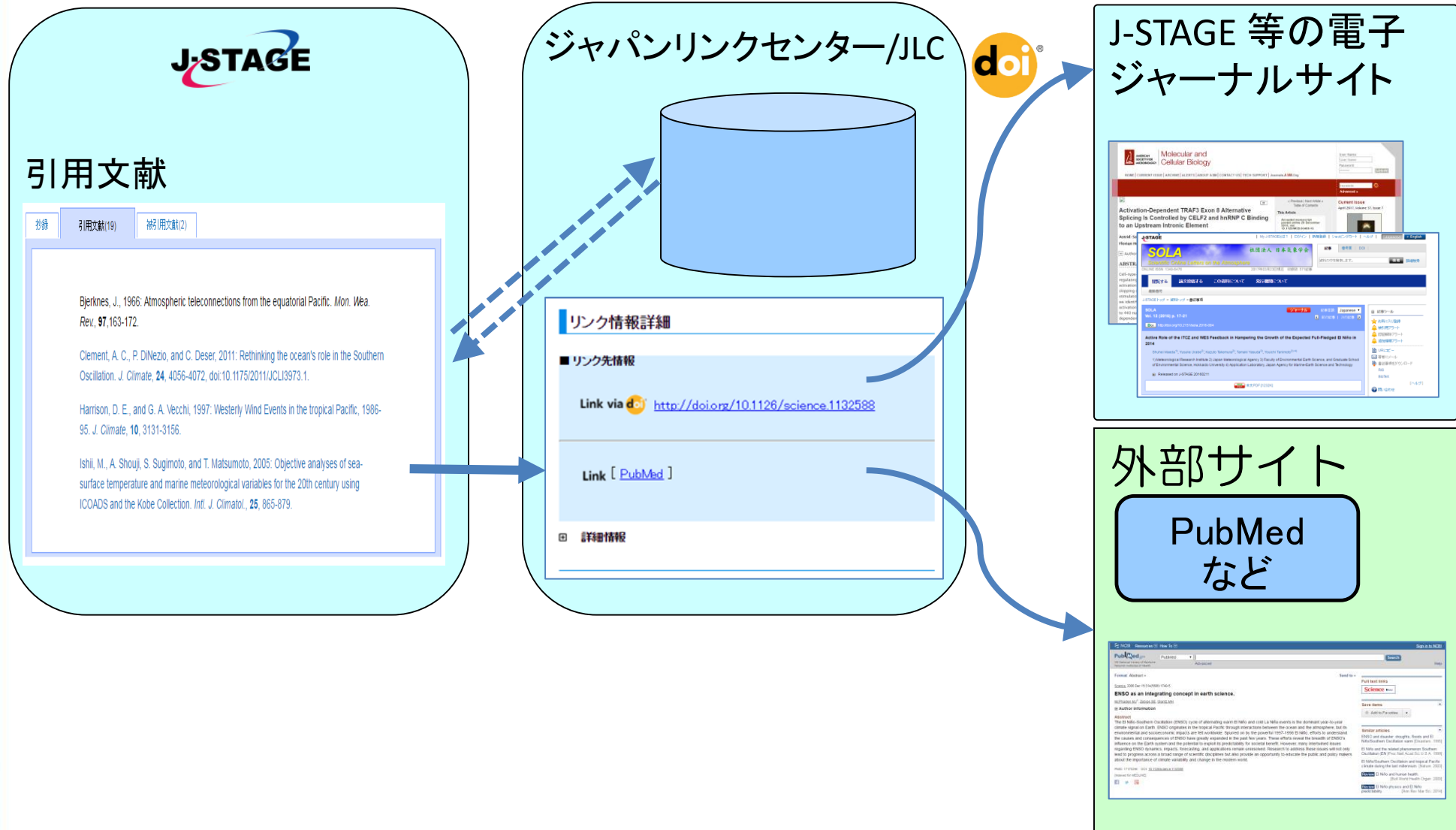
■ リンク先情報

Link via  <http://doi.org/10.1126/science.1132588>  DOIによるリンク

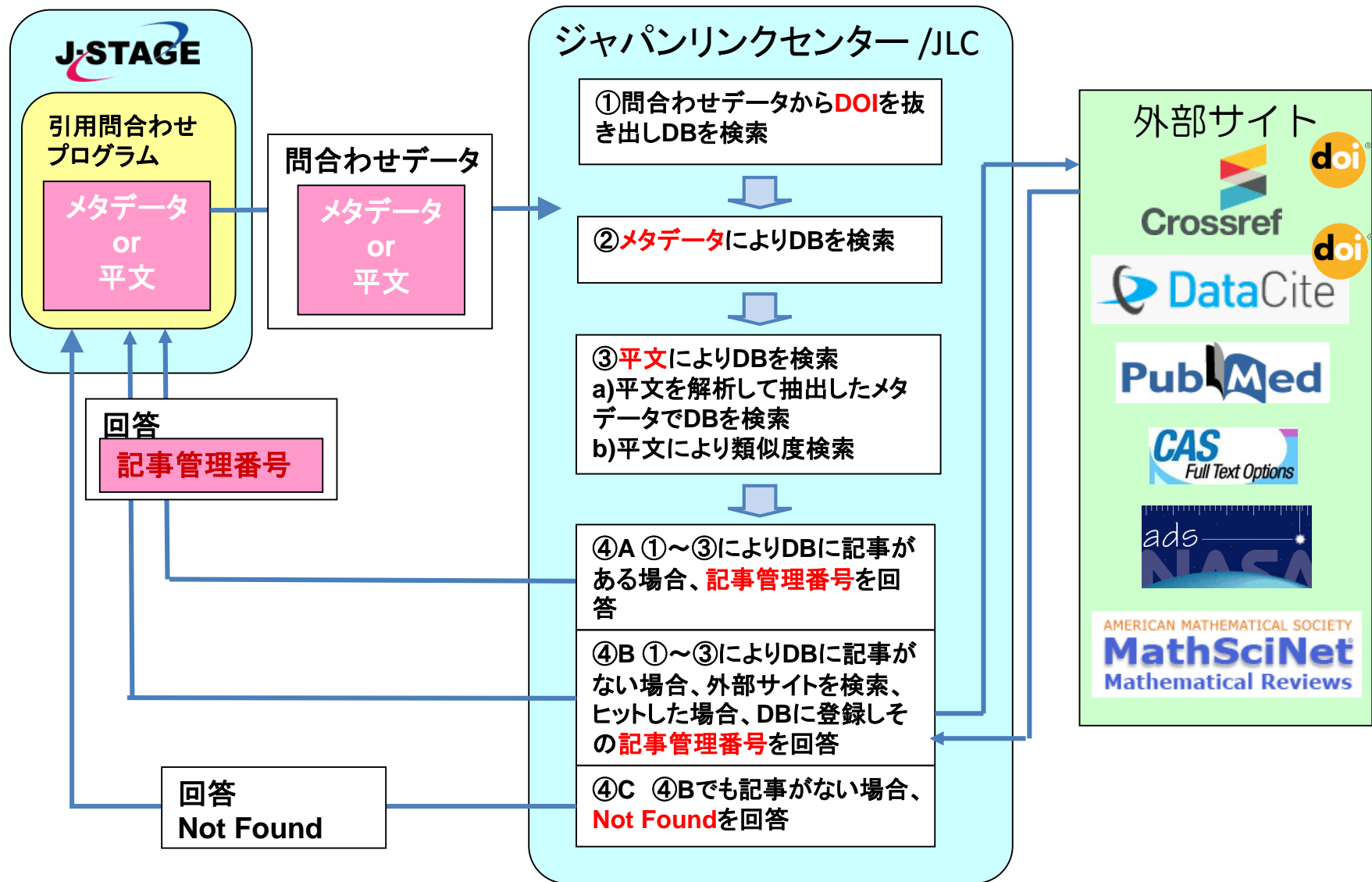
Link [[PubMed](#)]  PubMed等外部サイトへのリンク

田 詳細情報

引用文献から外部サイトにリンク



引用文献問合せ



被引用文献一覧のイメージ

抄録

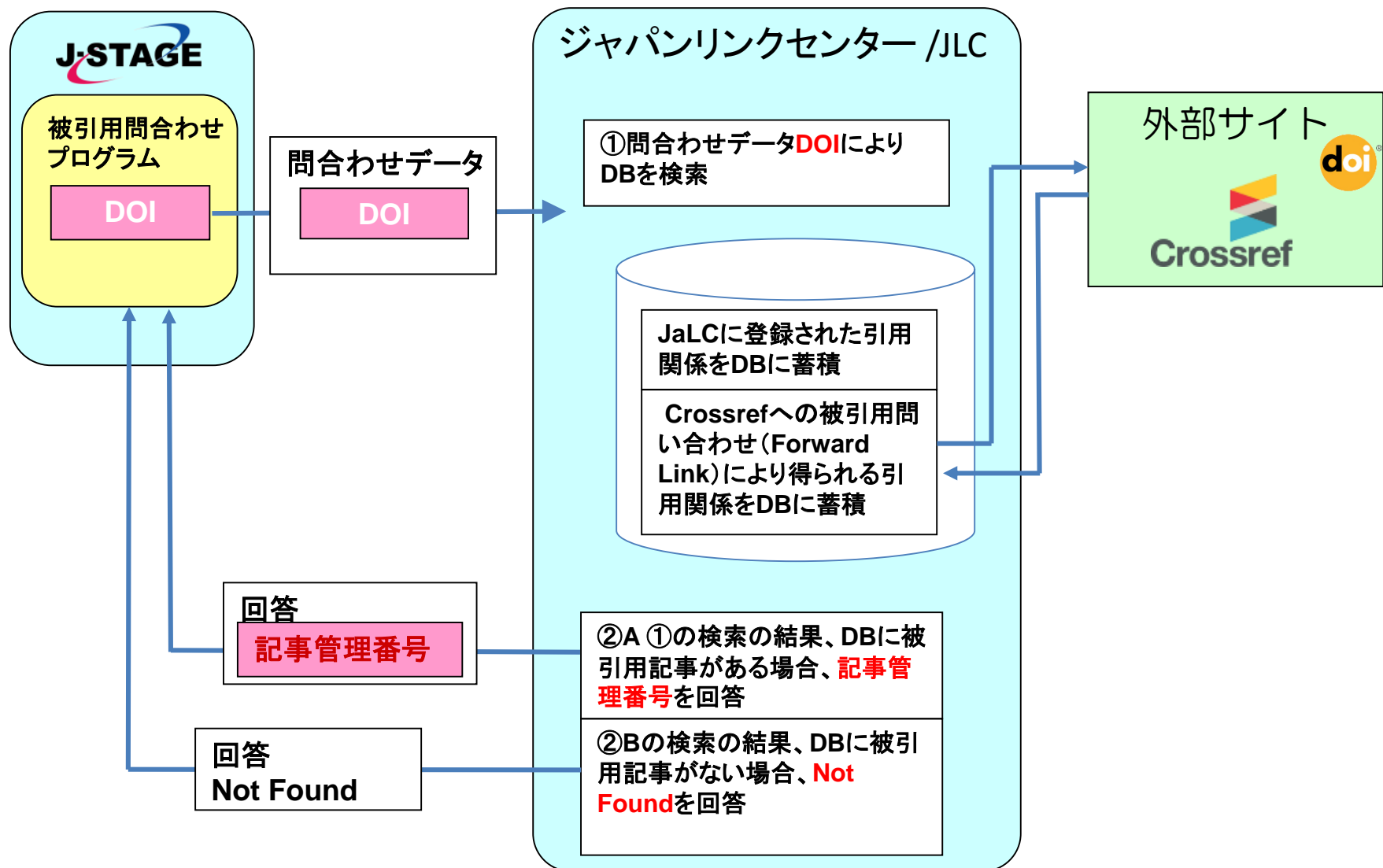
引用文献(19)

被引用文献(2)

Shuhe Maeda, Yusuke Urabe, Kazuto Takemura, et al. Significant Atmospheric Circulation Anomalies over the North Pacific Associated with the Enhanced Pacific ITCZ during the Summer–Fall of 2014. SOLA. 2016, Vol.12, No.0, p.282.

Yusuke Urabe, Tamaki Yasuda, Shuhe Maeda. Rapid Warming in Global Sea Surface Temperature since around 2013. SOLA. 2017, Vol.13, No.0, p.25.

被引用文献問合せ



ご静聴ありがとうございました。